

歯学協ニュース No.7

(発行日：2016年9月27日)



歯科界の幅広い英知を結集しましょう

理事長 宮崎 隆

去る6月30日に開催された総会で本協議会の平成28-29年度の理事長に再任されました。本協議会は歯学に関連した学会の連合体として発足し、当初から日本学術会議歯学委員会との強い連携のもとに活動しています。

前年度におきましても、学術会議歯学委員会との共催（対外的には学術会議主催の形）で歯学に関わる重要テーマに関するシンポジウムを開催することができました。講演と討論内容をプロシーディングにまとめ、行政や関連団体をはじめ、広く社会に発信しました。また、日本歯科医学会とも始めてですが、合同で「健康長寿と再生医療」をテーマにしたシンポジウムを開催しました。今後も日本学術会議との連携はもとより、新しく設立された日本歯科医学会連合や日本歯科医師会ほかの機関とも連携していきたいと思えます。

本協議会は前年度中に新会員をお迎えして会員数が76になりました。日本歯科医学会の専門分科会ならびに認定分科会に加入している殆どの学会はもとより、日本医学会分科会の口腔科学会、歯科医療の仲間である歯科衛生士と歯科技工士が中心の学会（日本歯科衛生学会、日本歯科技工学会）、幅広い医療職が参画している学会（日本摂食嚥下リハビリテーション学会ほか）、歯学に関連した特色のある学会、そして私の選出母体である昭和学士会をはじめ全国の大学の学内学会が参画しています。

従来は学内学会も日本学術会議の協力学術研究団体の指定を受けていましたが、最近資格認定が変わり、昭和学士会は指定が解除されました。現在学術会議からの情報については、会員学会事務局にメールでリアルタイムで配信していますので、今後も迅速な情報提供に努めます。

今期の活動目標は、多様な構成である会員学会からの意見を幅広く吸い上げて、歯科界が抱える医療問題、教育問題、歯科における専門医制・認定制度等のありかたについて協議をし、会員学会の意見を集約して、政策提言のような形で歯科界だけでなく社会に発信していきたいと思えます。会員の皆様からの忌憚のないご意見を頂戴するとともに、歯学協の活動へのご理解とご指導を宜しくお願い申し上げます。



日本歯学系学会協議会副理事長に就任して

副理事長 安井 利一

6月の総会で副理事長を拝命した一般社団法人日本口腔衛生学会選出の安井利一です。これからの2年間宜しくお願い申し上げます。私は、本協議会の設立（平成15年4月25日）から関わってきました。設立メンバーで執行部に残っているのは、私と現在の宮崎理事長の二人のようです。思い返せば、最初の頃は、何を目的に、どのような組織運営で、誰に向かって活動をするのかがなかなか理解できませんでした。しかし、赤川先生、山根先生、そして現在の宮崎先生と一緒に活動をするなかで、将来の歯科医学の在り方を考える際には、学会という専門性にとらわれず、教育という手段にとらわれず、歯科医療という職業形態にとらわれず、高所大所から意見を発信することが重要なのではないかと感じるに至っております。自由闊達に既存組織にとらわれずに歯科界を鳥瞰した議論のできる事がこの協議会の神髄かもしれません。

半世紀で小児う蝕の時代から、地域包括ケアシステムの時代に大きく様変わりしている日本という国の中で、これからの歯科医学・歯科医療の方向性を指向する大事な時であることに間違いありません。

思考を新たにしないとイケない時代なのでしょう。私が、大学人の立場であることも実は、本協議会の方向性に枠をはめてしまうのではないかと危惧しておりますが、与えられた立場ですので初心を忘れることなく努力したいと思っております。

【予告】

2017年1月28日（土）に「他職種連携（仮）」をテーマとしたシンポジウムを開催いたします。詳細が決まりましたら、改めてご連絡申し上げます。



日本歯学系学会協議会 常任理事に就任して ご挨拶

常任理事 外木 守雄

この度、日本歯科系学会協議会、広報、会計担当常任理事を仰せつかりました外木守雄と申します。

歯学協は文字通り歯科系の学会が集まり、今後の歯科医学の発展に寄与するための協議会であると考えております。

そこで、広報委員会として、HP の充実、ニュースレターの制作など配布を No.7 まで行っておりますが、今後も、歯科関係者のみならず、広く国民の皆様に歯科医学が国民の健康増進に役立つことをお伝えしてまいります。また、歯学協が健全な政策集団であるためには健全な会計業務は必須であるとも思います。前任の森戸光彦 先生のご指導も賜りながら、宮崎会長を支えてゆく所存です。

また、私、この4月より、歯学協をもとに発足した歯科系学会社会保険委員会連合（歯保連）の会長も務めさせていただくことになりました。現在、歯保連では、従来の人件費＋医療材料費の総和をもとにした評価ではなく、歯科治療技術の貢献度を評価する新評価基軸を策定しようとしております。これは、まだ、概念的なものでありますが、その歯科技術を行うことで、

- (1) 機能温存・機能回復等により得られる直接的な効果を評価する
- (2) 手術、処置時間の短縮化、回数の減少、人的資源の集約化で、医療資源を効率化することを評価する
- (3) 生命に関する貢献度（延命効果、健康増進度）を評価する
- (4) 歯科医療費の削減、費用対効果を評価する。
- (5) 救急救命性、処置後の改善性などを評価する

ことを想定しております。この新評価基軸は、必ずや将来の歯科医学界の発展に寄与するものと考えます。

今後とも歯学協の一員として、皆様のお役に立てるよう努力する所存でございますので、ご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

日本歯学系学会協議会 広報、会計担当 常任理事
歯学系学会社会保険委員会連合 会長
日本大学歯学部口腔外科学講座口腔外科学分野 教授

ご挨拶

常任理事 矢谷 博文



大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座クラウンブリッジ補綴学分野教授の矢谷博文と申します。日本補綴歯科学会を代表して前期に引き続いて日本歯学系学会協議会の常任理事を拝命いたしました。協議会内では引き続き企画を担当し、学術会議関係セミナーや日本歯科医学会との共催講演会等の開催を担当させていただきます。

歯科界はあいかわらず長い低迷期に入ったままであるように思います。安倍内閣は、第2のアベノミクスの中で新3本の矢として、「希望を生み出す強い経済」、「夢を紡ぐ子育て支援」、「安心につながる社会保障」を掲げ、希望、夢、安心の3本の矢でアベノミクスによる果実を国民に届けようと努力を続けております。しかしながら、経済は多くの国民が実感できる形での回復は見られず、子育ても社会保障も問題山積というのが現状ではないかと思っております。第3の成長戦略であった「医療」もアベノミクスの標語の中から消えてしまいました。ただ、平成28年度の歯科診療報酬改定は、歯科の将来に向けて少し希望がもてるような内容であったように思います。日本歯学系学会協議会は総力挙げて歯科医療がいかに関国民の健康に役立っているかを証明し、それを国民に広く知っていただくことによって歯科の復権を図る必要があると考えております。以前の挨拶でも書きましたが、日本歯学系学会協議会での活動を通じて、より質の高い学術情報の発信と健康増進に直結する活動を行い、国民の健康な暮らしや豊かな人生に少しでも貢献できればと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

歯学協ニュースに対するご意見、ご要望等ございましたら、日本歯学系学会協議会事務局までご連絡下さい。

(一社) 日本歯学系学会協議会 事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-43-9 駒込 TSビル (一財) 口腔保健協会内

FAX : 03-3947-8341、E-mail : gakkai18@kokuhoken.or.jp